

2022年12月14日 実施分

【演習問題の解答例】

1 (1) $f(x, y) = 2x^2 + xy + y^2 - 2x + 3y - 10 = 0$ ($y = \varphi(x)$) の両辺を x で微分すると

$$4x + y + xy' + 2yy' - 2 + 3y' = 0 \quad \therefore \varphi'(x) = y' = -\frac{4x + y - 2}{x + 2y + 3} \quad (*)$$

を得る. 特に, $\varphi'(0) = -\frac{-5-2}{-10+3} = -1$ より, 求める接線と法線の方程式はそれぞれ

$$y - (-5) = \varphi'(0)x \quad \therefore y = -x - 5$$

$$y - (-5) = -\frac{1}{\varphi'(0)}x \quad \therefore y = x - 5$$

次に, $b = \varphi(a)$ とおく. $\varphi(x)$ が点 $x = a$ で極値をとれば, $\varphi'(a) = 0$ なので, (*) から, $b = 2 - 4a$ をみtas. よって, $a \neq 1$ のとき, $\varphi''(a) = -\frac{f_{xx}(a, 2-4a)}{f_y(a, 2-4a)} = -\frac{4}{a+2(2-4a)+3} = \frac{4}{7(a-1)}$ を得る.

(2) $f(x, y) = x^3 + y^3 - 3xy - 3 = 0$ ($y = \varphi(x)$) の両辺を x で微分すると

$$3x^2 + 3y^2y' - 3y - 3xy' = 0 \quad \therefore \varphi'(x) = y' = \frac{x^2 - y}{x - y^2} \quad (*)$$

を得る. 特に, $\varphi'(\sqrt[3]{3}) = \frac{(\sqrt[3]{3})^2}{\sqrt[3]{3}} = \sqrt[3]{3}$ より, 求める接線と法線の方程式はそれぞれ

$$y = \varphi'(\sqrt[3]{3})(x - \sqrt[3]{3}) = \sqrt[3]{3}x - \sqrt[3]{9}, \quad y = -\frac{1}{\varphi'(\sqrt[3]{3})}(x - \sqrt[3]{3}) = -\frac{x}{\sqrt[3]{3}} + 1$$

次に, $b = \varphi(a)$ とおく. $\varphi(x)$ が点 $x = a$ で極値をとれば, $\varphi'(a) = 0$ なので, (*) から, $b = a^2$ をみtas. よって, $a \neq 0, 1$ のとき, $\varphi''(a) = -\frac{f_{xx}(a, a^2)}{f_y(a, a^2)} = -\frac{6a}{3(a^2)^2 - 3a} = \frac{2}{1 - a^3}$ を得る.

(3) $f(x, y) = 2x^3 - x^2y + y^2 = 0$ ($y = \varphi(x)$) の両辺を x で微分すると

$$6x^2 - 2xy - x^2y' + 2yy' = 0 \quad \therefore \varphi'(x) = y' = \frac{2x(3x - y)}{x^2 - 2y} \quad (*)$$

を得る. 特に, $\varphi'(-1) = \frac{(-2)(-2)}{1+2} = \frac{4}{3}$ より, 求める接線と法線の方程式はそれぞれ

$$y - (-1) = \varphi'(-1)(x + 1) \quad \therefore y = \frac{4}{3}x + \frac{1}{3}$$

$$y - (-1) = -\frac{1}{\varphi'(-1)}(x + 1) \quad \therefore y = -\frac{3}{4}x - \frac{7}{4}$$

次に, $b = \varphi(a)$ とおく. $\varphi(x)$ が点 $x = a$ で極値をとれば, $\varphi'(a) = 0$ なので, (*) から, $a = 0$ または $b = 3a$ をみtas. ここで, $a = 0$ のとき, $b = 0$ より, $\varphi'(0)$ は存在しない. よって, $a \neq 0, 6$ のとき, $\varphi''(a) = -\frac{f_{xx}(a, 3a)}{f_y(a, 3a)} = -\frac{12a - 2(3a)}{-a^2 + 2(3a)} = \frac{6}{a - 6}$ を得る.

(4) $f(x, y) = x^4 - 2x^2y + y^3 = 0$ ($y = \varphi(x)$) の両辺を x で微分すると

$$4x^3 - 4xy - 2x^2y' + 3y^2y' = 0 \quad \therefore \varphi'(x) = y' = \frac{4x(x^2 - y)}{2x^2 - 3y^2} \quad (*)$$

を得る. 特に, $\varphi'(1) = 0$ より, $(1, 1)$ における接線の方程式は $y = 1$ であり, 法線の方程式は $x = 1$ である. 次に, $b = \varphi(a)$ とおく. また, $\varphi(x)$ が点 $x = a$ で極値をとれば, $\varphi'(a) = 0$ なので, (*) から, $a = 0$ または $b = a^2$ をみtas. ここで, $a = 0$ のとき, $b = 0$ より, $\varphi'(0)$ は存在しない. よって, $a \neq 0, \pm\sqrt{2/3}$ のとき, $\varphi''(a) = -\frac{f_{xx}(a, a^2)}{f_y(a, a^2)} = -\frac{4(3a^2 - a^2)}{-2a^2 + 3(a^2)^2} = \frac{8}{2 - 3a^2}$ を得る.

注意 $\varphi'(a) = 0$ となる a を考える際には, $\varphi(x)$ が a の近傍で定義されていることが前提となる. 故に, $f(a, b) = 0$, $f_y(a, b) \neq 0$ となる b が存在し (そのとき $b = \varphi(a)$), $\varphi''(a)$ は必ず値が定まる. 従って, 上では「 $a \neq \dots$ のとき」という条件をつけたが, 実はこの条件はここで説明した「前提」に含まれるので, 書く必要はない.

2 (1) 1 (1) より

$$0 = f(a, b) = f(a, 2 - 4a) = 14a(a - 2) \quad \therefore a = 0, 2$$

がわかる。よって、 $\varphi''(0) = -\frac{4}{7} < 0$, $\varphi''(2) = \frac{4}{7} > 0$ から、 $\varphi(x)$ は点 $x = 0$ で極大値 (かつ最大値) 2 をとり、点 $x = 2$ で極小値 (かつ最小値) -6 をとる。なお、曲線 $f(x, y) = 0$ は楕円を表す。

(2) 1 (2) より

$$0 = f(a, b) = f(a, a^2) = (a^3 + 1)(a^3 - 3) \quad \therefore a = -1, \sqrt[3]{3}$$

がわかる。よって、 $\varphi''(-1) = 1 > 0$, $\varphi''(\sqrt[3]{3}) = -1 < 0$ から、 $\varphi(x)$ は点 $x = -1$ で極小値 1 をとり、点 $x = \sqrt[3]{3}$ で極大値 $(\sqrt[3]{3})^2 = \sqrt[3]{9}$ をとる。なお、曲線 $f(x, y) = 0$ はデカルトの正葉線の 1 つである。

(3) 1 (3) より

$$0 = f(a, b) = f(a, 3a) = a^2(9 - a) \quad \therefore a = 0, 9$$

がわかる。よって、 $\varphi''(9) = 2 > 0$ から、 $\varphi(x)$ は点 $x = 9$ で極小値 27 をとる。

(4) 1 (4) より

$$0 = f(a, b) = f(a, a^2) = a^4(a^2 - 1) \quad \therefore a = 0, \pm 1$$

がわかる。よって、 $\varphi''(\pm 1) = -8 < 0$ から、 $\varphi(x)$ は点 $x = \pm 1$ で極大値 (かつ最大値) 1 をとる。ここで、 $0 \leq x^2 = \varphi(x) \pm |\varphi(x)|\sqrt{1 - \varphi(x)}$ なので、 $\varphi(x) \leq 1$ に注意する。

3 (6) (i) 最初に、 $f(x, y)$ が極値をとる可能性のある点 (a, b) の候補をラグランジュの未定乗数法で求める。つまり、条件 $g(x, y) = 0$ の下で、 $f(x, y)$ がある点 (a, b) で極値をとると仮定する。そのとき、 $a^2 + b^2 = 2$ から、 $g_x(a, b) = 2a \neq 0$ または $g_y(a, b) = 2b \neq 0$ をみたすので、 $F(x, y, \lambda) = f(x, y) - \lambda g(x, y)$ とおくと、ラグランジュの未定乗数法により、ある実数 α が存在して

$$0 = F_x(a, b, \alpha) = a(3a - 2\alpha), \quad 0 = F_y(a, b, \alpha) = b(3b - 2\alpha), \quad 0 = -F_\lambda(a, b, \alpha) = g(a, b) = a^2 + b^2 - 2$$

が成り立つ。ここで、 $ab = 0$ のとき、 $a^2 + b^2 = 2$ より、 $(a, b) = (0, \pm\sqrt{2}), (\pm\sqrt{2}, 0)$ を得る。 $ab \neq 0$ のとき、 $a = b = \frac{2}{3}\alpha$ なので、 $0 = g(a, b) = \frac{8}{9}\alpha^2 - 2$ から、 $a = b = \pm 1$ で、 $(a, b) = (1, 1), (-1, -1)$ がわかる。

(ii) $C = \{(x, y) \mid g(x, y) = 0\}$ は閉曲線 (= 閉じた曲線) なので、この曲線を 1 周するときの値の変化を見れば極大、極小が判定できる。実際、点 (x, y) を円 C に沿って反時計回りに移動させれば、 $f(x, y)$ の値は

(x, y)	$(\sqrt{2}, 0)$	\cdots	$(1, 1)$	\cdots	$(0, \sqrt{2})$	\cdots	$(-\sqrt{2}, 0)$	\cdots	$(-1, -1)$	\cdots	$(0, -\sqrt{2})$	\cdots	$(\sqrt{2}, 0)$
$f(x, y)$	$2\sqrt{2}$	\searrow	2	\nearrow	$2\sqrt{2}$	\searrow	$-2\sqrt{2}$	\nearrow	-2	\searrow	$-2\sqrt{2}$	\nearrow	$2\sqrt{2}$

と変化するので、各候補点での極大・極小が次のように判定される。点 $(\sqrt{2}, 0), (0, \sqrt{2})$ で極大値 (かつ最大値) $2\sqrt{2}$ をとり、点 $(-\sqrt{2}, 0), (0, -\sqrt{2})$ で極小値 (かつ最小値) $-2\sqrt{2}$ をとる。更に、点 $(1, 1)$ で極小値 2 をとり、点 $(-1, -1)$ で極大値 -2 をとる。

(ii)' 以下では C が閉曲線でない場合にも対応できるように、 $g(x, y) = 0$ の陰関数を利用して直接、極値の判定を実行する。例えば、候補点 $(1, 1)$ での状況を調べてみよう。 $(1, 1)$ の近傍 $D_r(1, 1) = \{(x, y) \mid (x - 1)^2 + (y - 1)^2 < r^2\}$ で、 $g(x, y) = 0$ の陰関数 $y = \varphi(x)$ をとり ($g_y(1, 1) \neq 0$ に注意)、 $f(x, y)$ を 1 変数化した関数 $h(x) = f(x, \varphi(x)) = x^3 + \{\varphi(x)\}^3$ を考える。 $h(x)$ は $(1, 1)$ の近傍で $f(x, y)$ に条件 $g(x, y) = 0$ を組み込んだ関数であるから、 $(1, 1)$ での極大・極小を判定するには $h''(1)$ の符号を調べればよい。ここで、 $h'(x) = 3[x^2 + \{\varphi(x)\}^2\varphi'(x)]$, $h''(x) = 3[2x + 2\varphi(x)\{\varphi'(x)\}^2 + \{\varphi(x)\}^2\varphi''(x)]$ であり、 $\varphi'(1), \varphi''(1)$ は $g(x, \varphi(x)) = 0$ の両辺を x で 2 回微分することで計算される ($\varphi(1) = 1$ に注意)。これが以下の方針である。

$$0 = \frac{d}{dx}g(x, \varphi(x)) = \frac{d}{dx}\{x^2 + \varphi(x)^2 - 2\} = 2x + 2\varphi(x)\varphi'(x) \quad \therefore \varphi'(1) = -\frac{1}{\varphi(1)} = -1$$

ここで、当然ながら、 $h'(1) = 0$ をみたしている (ラグランジュの未定乗数法が保証)。更に、 x で微分すると

$$0 = \frac{d^2}{dx^2}g(x, \varphi(x)) = 2 + 2\{\varphi'(x)\}^2 + 2\varphi(x)\varphi''(x) \quad \therefore \varphi''(1) = -\frac{1 + \{\varphi'(1)\}^2}{\varphi(1)} = -2$$

を得る. よって, $h''(1) = 3[2 + 2\varphi(1)\{\varphi'(1)\}^2 + \{\varphi(1)\}^2\varphi''(1)] = 3(2 + 2 - 2) = 6 > 0$ なので, $h(x)$ は $x = 1$ で極小値 $h(1) = 2$ をとる. つまり, $f(x, y)$ は点 $(1, 1)$ で極小値 $f(1, 1) = h(1) = 2$ をとる. 点 $(-1, -1)$ でも全く同様にして, $f(x, y)$ は点 $(-1, -1)$ で極大値 $f(-1, -1) = -2$ をとることがわかる. 2点 $(0, \pm\sqrt{2})$ でも同様であり, $f(x, y)$ は点 $(0, \sqrt{2})$ で極大値 $f(0, \sqrt{2}) = 2\sqrt{2}$ をとり, 点 $(0, -\sqrt{2})$ で極小値 $f(0, -\sqrt{2}) = -2\sqrt{2}$ をとることがわかる. 2点 $(\pm\sqrt{2}, 0)$ では, $g_y(\pm\sqrt{2}, 0) = 0$ なので, $g(x, y) = 0$ の陰関数 $x = \psi(y)$ をとる必要があるが, 考え方は前の場合と同じであり, $f(x, y)$ は点 $(\sqrt{2}, 0)$ で極大値 $f(\sqrt{2}, 0) = 2\sqrt{2}$ をとり, 点 $(-\sqrt{2}, 0)$ で極小値 $f(-\sqrt{2}, 0) = -2\sqrt{2}$ をとることが示される.

- (7) (i) 最初に, $f(x, y)$ が極値をとる可能性のある点 (a, b) の候補をラグランジュの未定乗数法で求める. つまり, 条件 $g(x, y) = 0$ の下で, $f(x, y)$ がある点 (a, b) で極値をとると仮定する. そのとき, $a^2 - b^2 = -1$ から, $g_y(a, b) = -2b \neq 0$ をみたすので, $F(x, y, \lambda) = f(x, y) - \lambda g(x, y)$ とおくと, ラグランジュの未定乗数法により, ある実数 α が存在して

$$0 = F_x(a, b, \alpha) = 2(1 - \alpha a), \quad 0 = F_y(a, b, \alpha) = b(3b + 2\alpha), \quad 0 = -F_\lambda(a, b, \alpha) = g(a, b) = a^2 - b^2 + 1$$

が成り立つ. ここで, $b \neq 0$ より, $3b + 2\alpha = 0$ をみたす. そして, α を消去して, $0 = 2(1 - \alpha a) + a(3b + 2\alpha) = 2 + 3ab$ から, $a = -\frac{2}{3b}$ を得る. よって, $0 = g\left(-\frac{2}{3b}, b\right) = \frac{(3b^2 + 1)(3b^2 - 4)}{9b^2}$ なので, $b = \pm\frac{2}{\sqrt{3}}$ を導く. また, $a = -\frac{2}{3}\left(\pm\frac{\sqrt{3}}{2}\right) = \mp\frac{1}{\sqrt{3}}$ を知る. こうして, $(a, b) = \left(\frac{1}{\sqrt{3}}, -\frac{2}{\sqrt{3}}\right), \left(-\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ がわかる.

(ii) $H = \{(x, y) \mid g(x, y) = 0\}$ は有界でないので, $g(x, y) = 0$ の陰関数を利用して極値の判定を実行する. $g_y\left(\pm\frac{1}{\sqrt{3}}, \mp\frac{2}{\sqrt{3}}\right) = \pm\frac{4}{\sqrt{3}} \neq 0$ から, 2点 $\left(\pm\frac{1}{\sqrt{3}}, \mp\frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ の近傍で $g(x, y) = 0$ の C^2 級の陰関数 $y = \varphi(x)$ は存在する. 例えば, 点 $\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ の近傍 $D_r\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right) = \left\{(x, y) \mid \left(x + \frac{1}{\sqrt{3}}\right)^2 + \left(y - \frac{2}{\sqrt{3}}\right)^2 < r^2\right\}$ で, $g(x, y) = 0$ の陰関数 $y = \varphi(x)$ をとり, $f(x, y)$ を1変数化した関数 $h(x) = f(x, \varphi(x)) = 2x + \{\varphi(x)\}^3$ を考える. $h(x)$ は $\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ の近傍で $f(x, y)$ に条件 $g(x, y) = 0$ を組み込んだ関数であるから, $\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ での極大・極小を判定するには $h''\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right)$ の符号を調べればよい. ここで, $h'(x) = 2 + 3\{\varphi(x)\}^2\varphi'(x)$, $h''(x) = 6\varphi(x)\{\varphi'(x)\}^2 + 3\{\varphi(x)\}^2\varphi''(x)$ であり, $\varphi'\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right), \varphi''\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right)$ は $g(x, \varphi(x)) = 0$ の両辺を x で2回微分することで計算される ($\varphi\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2}{\sqrt{3}}$ に注意). これが以下の方針である.

$$0 = \frac{d}{dx}g(x, \varphi(x)) = \frac{d}{dx}\{x^2 - \varphi(x)^2 + 1\} = 2x - 2\varphi(x)\varphi'(x) \quad \therefore \varphi'\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{-\frac{1}{\sqrt{3}}}{\frac{2}{\sqrt{3}}} = -\frac{1}{2}$$

ここで, 当然ながら, $h'\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = 0$ が成り立つ (ラグランジュの未定乗数法が保証). 更に, x で微分すると

$$0 = \frac{d^2}{dx^2}g(x, \varphi(x)) = 2 - 2\{\varphi'(x)\}^2 - 2\varphi(x)\varphi''(x) \quad \therefore \varphi''\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{1 - \frac{1}{4}}{\frac{2}{\sqrt{3}}} = \frac{3\sqrt{3}}{8}$$

を得る. よって, $h''\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = 6 \cdot \frac{2}{\sqrt{3}} \frac{1}{4} + 3 \cdot \frac{4 \cdot 3\sqrt{3}}{8} = \frac{5\sqrt{3}}{2} > 0$ なので, $h(x)$ は $x = -\frac{1}{\sqrt{3}}$ で極小値 $h\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2}{3\sqrt{3}}$ をとる. つまり, $f(x, y)$ は点 $\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ で極小値 $f\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right) = h\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2}{3\sqrt{3}}$ をとる. 点 $\left(\frac{1}{\sqrt{3}}, -\frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ でも全く同様にして, $f(x, y)$ は点 $\left(\frac{1}{\sqrt{3}}, -\frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ で極大値 $f\left(\frac{1}{\sqrt{3}}, -\frac{2}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{2}{3\sqrt{3}}$ をとることがわかる.

注意 $g(x, y) = 0$ の構造が簡単なので, 極大・極小の判定に関しては, 次のような考察も可能. 曲線 $g(x, y) = x^2 - y^2 + 1 = 0$ は, 共有点をもたない2本の曲線 $y = \pm\sqrt{x^2 + 1}$ からなる. 点 $(-1/\sqrt{3}, 2/\sqrt{3})$ は曲線 $C_1: y = \sqrt{x^2 + 1}$ 上にあり, C_1 上では $f(x, y) = 2x + y^3 \rightarrow \infty$ ($x \rightarrow \pm\infty$) となるから, $(-1/\sqrt{3}, 2/\sqrt{3})$ では極小値 (C_1 上の最小値) をとることが分かる. 一方, 点 $(1/\sqrt{3}, -2/\sqrt{3})$ は $C_2: y = -\sqrt{x^2 + 1}$ 上にあり, C_2 上では $f(x, y) = 2x + y^3 \rightarrow -\infty$ ($x \rightarrow \pm\infty$) となるから, $(1/\sqrt{3}, -2/\sqrt{3})$ では極大値 (C_2 上の最大値) をとることが分かる.

【レポート課題の解答例】

- 4 $f(x, y) = 0$ の定める陰関数 $y = \varphi(x)$ について考える. $f(x, y) = 2x^3 - 3x^2 + y^2 - 3 = 0$ ($y = \varphi(x)$) の両辺を x で微分すると

$$0 = 6x^2 - 6x + 2yy' = 2\{yy' - 3x(1-x)\} \quad \therefore \varphi'(x) = y' = \frac{3x(1-x)}{y} = \frac{3x(1-x)}{\varphi(x)} \quad (*)$$

$b = \varphi(a)$ とおくと、 $f(a, b) = 0$ であり、 $\varphi'(a) = 0$ ならば、 $\varphi''(a) = -\frac{f_{xx}(a, b)}{f_y(a, b)} = -\frac{6a-3}{b}$ となる. (実は $(*)$ は $\varphi'(a) = -\frac{f_x(a, b)}{f_y(a, b)} = -\frac{3a(a-1)}{b}$ であつた.) $\varphi(x)$ が点 $x = a$ で極値をとれば、 $\varphi'(a) = 0$ なので、 $(*)$ から、 $a = 0$ または $a = 1$ が導かれる.

- $a = 0$ のとき、 $0 = f(0, b) = b^2 - 3$ より、 $b = \pm\sqrt{3}$. $y = \varphi(x)$ が点 $(0, \sqrt{3})$ の近傍で定まる陰関数ならば、 $\varphi''(0) = -\frac{-3}{\sqrt{3}} = \sqrt{3} > 0$ であるから、この $\varphi(x)$ は $x = 0$ で極小値 $\sqrt{3}$ をとる. 一方、 $y = \varphi(x)$ が点 $(0, -\sqrt{3})$ の近傍で定まる陰関数ならば、 $\varphi''(0) = -\frac{-3}{-\sqrt{3}} = -\sqrt{3} < 0$ であるから、この $\varphi(x)$ は $x = 0$ で極大値 $-\sqrt{3}$ をとる.
- $a = 1$ のとき、 $0 = f(1, b) = b^2 - 4$ より、 $b = \pm 2$. $y = \varphi(x)$ が点 $(1, 2)$ の近傍で定まる陰関数ならば、 $\varphi''(1) = -\frac{6-3}{2} = -\frac{3}{2} < 0$ であるから、この $\varphi(x)$ は $x = 1$ で極大値 2 をとる. 一方、 $y = \varphi(x)$ が点 $(1, -2)$ の近傍で定まる陰関数ならば、 $\varphi''(1) = -\frac{6-3}{-2} = \frac{3}{2} > 0$ であるから、この $\varphi(x)$ は $x = 1$ で極小値 -2 をとる.

- 5 (i) 最初に、 $f(x, y)$ が極値をとる可能性のある点 (a, b) の候補をラグランジュの未定乗数法で求める. 条件 $g(x, y) = 0$ の下で、 $f(x, y)$ がある点 (a, b) で極値をとると仮定する. そのとき、 $g(a, b) = 0$ から、 $g_x(a, b) = 2a - b \neq 0$ または $g_y(a, b) = 2b - a - 1 \neq 0$ をみたま (実際、両方とも等号なら $(a, b) = (1/3, 2/3)$ となるがこれは $g(a, b) = 0$ をみたまない). そこで、 $F(x, y, \lambda) = f(x, y) - \lambda g(x, y)$ とおくと、ラグランジュの未定乗数法により、ある実数 α が存在して

$$\begin{aligned} 0 &= F_x(a, b, \alpha) = 1 - \alpha(2a - b), & 0 &= F_y(a, b, \alpha) = -1 - \alpha(-a + 2b - 1), \\ 0 &= -F_\lambda(a, b, \alpha) = g(a, b) = a^2 - ab + b^2 - b \end{aligned}$$

が成り立つ. 最初の2式より $1/\alpha = 2a - b = a - 2b + 1$ であるから、 $b = 1 - a$. これを第3式に代入して、 $a(a - 2/3) = 0$ から $a = 0, 2/3$ を得る. よつて、 $(a, b) = (0, 1), (2/3, 1/3)$ がわかる.

(ii) 楕円 $E = \{(x, y) \mid g(x, y) = 0\}$ は有界かつ閉集合なので、「有界かつ閉集合における連続関数は最大値と最小値をもつ」という事実を用いれば、 $f(0, 1) = -1 < 1/3 = f(2/3, 1/3)$ から、次のことがわかる. 条件 $g(x, y) = 0$ の下で $f(x, y) = x - y$ は点 $(0, 1)$ で極小値 (かつ最小値) -1 をとり、点 $(2/3, 1/3)$ で極大値 (かつ最大値) $1/3$ をとる.

(ii)' [E が有界でない場合にも対応できる方法] $g(x, y) = 0$ の陰関数を利用して直接、極値の判定を実行する. まず、準備として、 $g(x, y) = x^2 - xy + y^2 - y = 0$ の定める陰関数 $y = \varphi(x)$ の2次までの導関数を考える. $x^2 - xy + y^2 - y = 0$ ($y = \varphi(x)$) の両辺を x で微分して $2x - y - (x - 2y + 1)y' = 0$. 更にこの両辺を x で微分して、 $2 - 2(1 + y')y' - (x + 2y - 1)y'' = 0$. よつて、

$$\varphi'(x) = y' = \frac{2x - y}{x - 2y + 1} = \frac{2x - \varphi(x)}{x - 2\varphi(x) + 1}, \quad \varphi''(x) = y'' = \frac{2 + 2(y' - 1)y'}{x - 2y + 1} = \frac{2 + 2(\varphi'(x) - 1)\varphi'(x)}{x - 2\varphi(x) + 1}.$$

- $y = \varphi(x)$ が点 $(0, 1)$ の近傍で定まる陰関数のとき、 $\varphi(0) = 1$ と上の関係式より、 $\varphi'(0) = 1$, $\varphi''(0) = -2$. ここで、 $h(x) = f(x, \varphi(x)) = x - \varphi(x)$ とおけば、 $h'(0) = 1 - \varphi'(0) = 0$, $h''(0) = -\varphi''(0) = 2 > 0$. よつて、 $h(0) = -1$ は極小値である.
- $y = \varphi(x)$ が点 $(2/3, 1/3)$ の近傍で定まる陰関数のとき、 $\varphi(2/3) = 1/3$ と上の関係式より、 $\varphi'(2/3) = 1$, $\varphi''(2/3) = 2$. ここで、 $h(x) = f(x, \varphi(x)) = x - \varphi(x)$ とおけば、 $h'(2/3) = 1 - \varphi'(2/3) = 0$, $h''(2/3) = -\varphi''(2/3) = -2 < 0$. よつて、 $h(2/3) = 1/3$ は極大値である.